

『煎茶礼要集』（竹幽文庫蔵）——孤本茶書——

山田 哲也

『煎茶礼要集』は、戦前に『茶道（全集）』第十卷、「茶書略解」（吉田堯文、末宗廣）により紹介されたきりであった。しかもその全貌は未だ明らかにされていない。本誌前号において、矢野環氏が後半部の「志野殿被仰聞書」を翻刻、紹介された。

底本は竹幽文庫所蔵無題茶書であり、内容は古田織部の伝を再編した『煎茶礼要集』（正保二年）と、永禄期の茶書と思われる『志野殿被仰聞書』からなる。ここに翻刻する前者は、古田織部の伝とされる一七〇箇条、さらに奥書の後に孤立した三箇条が付されたものである。織部伝書の一つと考えられるが、名のみ知られ、今回初めてその全貌を提供することになる。なお本書の茶道史における位置付けなどは、『文化情報学』第二巻第一号所収、矢野環「資料紹介『志野殿被仰聞書』（竹幽文庫蔵）——孤本茶書——」を参照されたい。

解題

本書は、前半の織部伝書『煎茶礼要集』（正保二年成立）と、その奥書の後に孤立した三条、そして『志野殿被仰聞書』とからなる。江戸後期の写本と考えられるもので、楮紙袋綴冊子、丁数は三十六丁。法量は二七四×一九三mm。毎半丁十一行書。表紙左に、題箋剥がれ跡（一八二×三九mm）が認められる。

本書は目録からその構成をみると、「貴人へ御茶上ル次第之事」三七

箇条、「従貴人御茶被下次第之事」一三箇条、「同輩之衆時之次第之事」二六箇条、「鎖間之次第之事」六箇条、「風炉之次第之事」一七箇条、「台子之次第之事」八箇条、「茶立時之次第之事」三三箇条、「万覚之事」三一箇条、奥書の後に付された三箇条、の計一七三箇条からなるものである。

奥書についての考察は、本誌前号で矢野氏がされており、本稿で特段追加することはない。ただ「織部からの聞書を、守岡閑栖が会津分散の後に大坂長堀（寛永二年開削）で書き立てたものが原本であり」と原本

筆写を「守岡閑栖」とされ、守岡を姓、閑栖を名と解されているが、現在の臨濟宗では讓職した前住職のことを「閑栖」とよんでおり、「閑栖」が名ではない、禅院の隠居をさす語の可能性があるとを一点指摘しておきたい。

本書は「右條々守岡閑栖老、自織部殿直伝之由二候而」とあることから、織部伝書とされてきたが、わずか六箇条であるが「鎖間之次第之事」という項目が収められていることに注目したい。「鎖間」とは、「くさりのみ」といい、茶室（小間の座敷）と書院の中間に位置する座敷で、ここでは天井に蛭釘を打って釜を釣り、袋棚という茶の湯に用いる棚を置き、濃茶のあとのくつろぎを与える場であった。特に古田織部はこの鎖間を自らの茶会に積極的に取り入れた事で知られていた。織部が茶室・鎖の間・書院という三つの組み合わせをして茶の湯を行うことを好んだことは知られていた。本書が「鎖の間」の項目をもっているということは、本書が織部流の伝書であるということより確実にするものである。

さらに本文第一五箇条に「炭置テ香箱ヲ取」と記されているが、この「香箱（こうばこ）」とは、茶の湯において使用する香を入れておく器のこととで、室町から江戸時代初期までは「香合」と表記することも多く、その場合も「こうばこ」と発音していた。江戸時代中頃以降は概ね「香合（こうごう）」と発音が変化して現在に至る。この点においても本書には一七世紀に纏められたものの痕跡が有ると言えよう。内容についての詳しい検討は後考を待ちたい。

凡例

- 一、読みやすいように句読点を付した。また併記の場合は中黒を用いた。
- 二、底本は漢字片仮名混じり文である。漢字は通行字体を用いて翻刻した。濁点は底本にあるもののみをそのまま記した。誤字については、その初出の横にパーレンを付して正字を注記した。合字、こととして、とも、についてはフ・ノ・トとした。
- 三、全体で百七十三箇条である。箇条には通し番号を付した。
- 四、丁変わりを、（丁数）（オ・ウ）」の形式で与える。

〔本文翻刻〕

〔表紙〕

煎茶礼要集目錄

貴人へ御茶上ル次第之事

従貴人御茶被下次第之事

同輩之衆時之次第之事

鎖間之次第之事

風炉之次第之事

台子之次第之事

茶立時之次第之事

万覚之事

煎茶礼要集

貴人へ御茶上ル次第

- 1一、貴人ニ御茶上ケ申時、亭主御迎ニ路次迄參り、跪居テ先へ參ント御内意有時ハ、書院ノ前ニ口有ハ其口へ入テ能由候。無キ時ハ二重ノ大戸ヨリ入テ不苦也。大戸ノ内へ御入被成時ハ、水打申口ヨリ罷出御礼申物也。内ノクゞリヲアケ御礼申事悪キナリ。内ノクゞリハ前廉ヨリ少アケテ置也。
- 2一、御相伴ノ人、御主ノ先へ參り、待合ニ待テ御主ノ御座候時、大戸ヲアケ御迎ニ出ル也。内路次へ御入候時、御相伴衆一人先へ行、内

路次ノクゞリヲアケ、内へハ不入シテ脇ニ跪居也。雪隠ナト御覧候ハ、腰掛ノ前ノ石ニ跪、雪隠御覧シ候テ、跪居申人ノ目通御過候テ後、相伴衆ハ雪隠ヲ見ル也。

- 3一、路次笠ノ事、客ノ数ホト外ノ腰掛ノ壁ニ掛置、切目ノ方ハ大戸ノキワノ事也、内路次迄2オ」来テ入申時ハ、雪隠見候ハ、笠ノ置所ハ、内ノ腰掛左ノ方ノ踏石ニ置、腰掛ニ靠テ置也。壁ニモタセカケ置事悪キ也。坐入ノ時ハ、ニジリ上リノ右ノ角ノ柱ニ持セ、下ハ踏石ノ上ニ置也。壁ニ靠事悪キ也。

- 4一、座入ノ時ハ、ワキザシヲ腰掛ノ杉桁ノ上ニ、鼻カミヲ一折置テ、其上ニワキザシヲ置、御供申之由候。刀ヲハ大戸ノ外ニ持セ置テ能由ニ候也

- 5一、路次マワリ前石ナト念ヲ入御覧候時、跪居テ能由ニ候。御主ノ如ク、念ヲ入見ルハ悪キ由ニ候。

- 6一、御主ニジリ上リノ戸ヲアケ、坐へ御入候テ、次ノ衆御雪隠ヲ直シ入テ能由ニ候。

- 7一、掛物ヲ見時モ、床ノ真向ヨリ見ルハ悪シ。少シ御主ヲ、ワキニスルヤウニ見ルカ能由ニ候。

- 8一、坐入ノ炉中ノ心持、朝ノスキニハ、炉中ヲアマリキツカトシタハ悪也。少ソ、ケタルカ好シ。2ウ」

- 9一、勝手ニ、釜ノ下へ夜深ニ大炭一ツ、輪炭一ツクベ置。カタコゲノナキヤウニ、炭ノ切口モ剩ニ成テ、坐敷ノ炉へ入。客ノ来ル時、釜ヲ掛ルナリ。釜ヲ勝手ノ炉ニテ湯ヲタギリセテ、坐入ノ時ハトクノト煮ルホトニシテ能由ニ候。湯タギリ候ハネハ、亭主遅ク仕カケ候ト客思也。又晩ノスキニハ、角ゞヲ如何ニモキツカト見ルヤウ

二仕事心持ナリ。

10一、貴人へ御礼申上ル所ハ、茶立口ノ大^{（本）}コバリノアトノ方ヨリ顔ヲサシ出シ、御礼申也。同輩ナラハ、同障子ノ立ツメヨリ、礼ヲスル也。

11一、御礼ヲ申上、炉中ヘカヘリ、縁ノワキ前ヲフクサニテザツト掃、火ノカゲンヲ見テ、炭取ヲ持テ出。左ノ手ヲツキ、右ノ手ニテカギタ、ミノ真中ニ置。灰ホウロクヲ物置ヘ入、障子ヲ立テ、棚ノ環^{（縁）}羽箒ヲ取下シ、カギタ、ミト大目ノタ、ミヲカケテ、炉縁ヨリ四目ニ置テ、環ヲ我前ト炉トノ間、大目ノ方ノ角ニ置テ、釜ノ蓋ヲシメテ3オ」羽箒ニテサツト掃。釜ニ環ヲ右カラ掛左ヲサシ、両方共二三分一廻テ手ヲ放シ、釜敷ヲ取出シ、折目ヲカベノ方ヘ、切目ヲ炉ノ方ニ角違ニ置キ、炉縁ヘ膝ヲ寄。扱釜ヲ上ル時、五徳ヲ少放テ、前ノ左ノ方ノ角ヲ目ニ付直ニ上ル。扱色紙窓ノ本ヘ引廻シテ、環ヲ放シ、釜ノキワニ置テ能由ニ候。

12一、釣舟ノ花ヲ見ル時ハ如常。床ノ前ニ畏リ居テ見テ、舟ノ中ヲ見ル時ハ立テ見也、ソレヨリ大目ヘ移ル也。

13一、坐入ノ炭ヲ置、水ヲサシ申時、塗片口ノ置所如図也。炭仕舞テ、水ヲサシテ後ノ片口ノ置処、如図。

14一、釣舟ノ折釘ハ、床ノ落シガケノ中墨ヨリ、二分下ニ打也。一筋ノ鎖リノ方ヲ出舟ト云。晩ニハ二筋ノ方ヲ通口ノ方ヘスル也。入舟ノ心持也。

15一、貴人ノ御前ニテ炭置事。下火ヲ火筋ニテ直シ、火筋ヲ羽箒ニテハキ、カキダ、3ウ」ミノ右ノ壁ニ立掛テ、ホウロクヲ縁キワヘ寄テ灰ヲ直シ、ホウロクヲ炭取ノ右ノ方ヘツキ出シ、大炭ノ上ニ有小炭ヲ、火筋ニテホウロクヘ移シテ、大炭ヲ両手ニテ炉中ニ置。指ニ付タル

炭ヲ口ニテ拭申事、貴人ノ前ニテハ悪事也。懐中ニテ鼻カミニテ拭候。火筋ヲ右ニ持、金ノ方ヲ左ノ手ニ掛、小炭置候所ヲ見テ、火筋ヲ取直シ置候テ能由ニ候。火筋ノ柄ヲ持、タ、ミノ上ニ立テ、小炭入候事悪シ。炭置テ香箱ヲ取、薫物ヲ先ヘト前ヘト二処ヘクベ、香箱ノ蓋ヲシテ下ニ置、羽箒ニテ又火筋ヲ払、フクベノ上ニ置。香箱ヲハ、灰ホウロクノ内ニ有ル灰スクヒノ上ニ置テ、羽箒ヲ取、炉中廻リ土ダンマテハキ。扱炭取・ホウロクヲ勝手ヘ入レ、フクサニテ釜ノ蓋ヲ取。内ヲ見テ蓋ヲシメテカツテへ行。塗片口ニ水ヲ入、蓋ノ上ニ茶巾ヲフクサメ置、引切ヲ持セカケテ置。持テ出テ、カベキワニ片口ヲ置、引切ヲオロシ、右ノ手ニテ茶巾ヲ持、釜ノ蓋ヲ取。即茶巾ヲフクサメ、片口ノ口ヲ茶巾ニテ抱ヘ、左ノ4オ」手ニテ片口ノ手ヲ持、水ヲ次也。又風炉ノ先ノ窓キワニ置事モアリ。其時ハ左手ニテ茶巾ヲ持、片口ヲ右ノ手ニテ持テ水ヲ次也。扱茶巾ヲ持テ釜ノ口マハリヲ撫テ、蓋ヲシメテヨリ、釜ノ底マテ茶巾ニテ撫テ引^{（マ）}ニ切ヲ、如レ右片口ノ上ニ置、茶巾ヲモ片口ノ上ニ置。但引切ト茶巾トノ置ヤウハ、引切ハ口ノ方、茶巾ハ手ノ方ニ置物也。サテ勝手ノ障子ヲアケテ、片口ヲ勝手ヘヤリ、扱炉中ノ火カゲンヲ見テ、釜ヲ引寄テ炉ヘ掛。釜敷ヲ左ノ角ニテホコリヲ掃イ、懐中ニ入。ソコニテ釜ヲ口クニ直シ、御相伴衆ヘロクニ候ヤト、尋テ能ト被申時ハ、環ヲ放シ居ナカラ、環ヲ勝手ヘヤリ、羽ニテ炉ノ廻リ、大目ノ内ヲモ払テ、勝手ノ障子ノ方ヘ退サリテ、羽ヲ下ニ置。其儘寄テ、釜ノ蓋ヲトリカケテ、ソコニテ会席能候ト、申テ勝手ヘ入。会席ヲ出ス物也ト、被仰聞候。

16一、中立ノ時、御主ノ次ニ居ル人、御先ヘ一人出テ御雪踏ヲ直シ、御

脇差ヲ取進シ、御腰ノ物ヲ持テ、腰掛ヘ御相伴申也。但是ハ内ノ者、御茶ヲ上ケ申時ノ事也。御大名衆御茶4ウ被進時、供仕ニハ、御セツタヲ直シ候迄可然候。又御主ヘ茶上ケ申時ハ、鏡ヲ打ヌ物ナリ。御主ノ御入被成儀ハ、御意次第第二可仕也。坐敷仕舞候カト、御尋ノ時ハ、能御坐候ト申物也。亭主ヨリ急キタル体ハ悪事也。

17一、中人ノ時、亭主花ヲ入候ヲ見ルモ、御主ヲ後ニセヌヤウニ、ザツト見ルガ能候

18一、亭主御茶ヲ立出シ候時、御相伴ノ貴人ヨリ二番目ノ人請取、御主ヘ上ル物也。

19一、貴人御茶ヲ上リ被下候時、茶ヲ頂キ候モ、亭主ノ方ヘ向キ頂申ス事悪キナリ。御主ノ方ヘ向頂候。次ノ人ニ時宜セヌガ能候。何モ下坐迄如此。但御茶上リ候時フクサ物御前ニ候ハ、貴人ノ次ニ居候人、フクサヲ亭主ノ前ヘ持參候テ能候。又御茶ヲ二番目ノ人ニ、フクサヲ茶碗ニ添被下候時ハ、フクサヲハ下ニ置キ茶ヲ飲也。其時ハ亭主ヘフクサヲ渡ス也。

20一、下坐ノ人、茶ヲ飲切、茶イキヲキ、不申、茶碗ヲ貴人ヘ上ル也。貴人ヨリ始ニ茶イキ5オ」ヲキカヌ物也。貴人茶イキヲ御キ、候テ、茶碗下坐ヘ廻リ候時ハ、下坐ノ人、茶碗ヲ直ニ亭主ノ手前ヘ持參スル也。又二番目ノ人ニ渡シ、亭主ノ前ヘ持テ參ル事モ有。

21一、御主ヘ茶ヲ上ケ申時ハ、置合ニ替リタル事ヲハ不仕物也。能々可心得也。

22一、貴人ヘ花所望スル時ハ、中人ノ時能候由ニ候。水サシ・茶入・茶碗ヲ直シ、床ニ花ヲ置、花ハ足打ニ小刀ヲ添置、其下ニ茶巾ヲフクサメテ置。薄板ハ、床カマチヨリ十七目奥ヘ寄テ置也。花入高候

ハ、十九目ニモ吉。足打ハ、床カマチヨリ七目、右ノカベノ方ヘハ五寸三分、五分ニモ置テ吉。花ノ置ヤウ同輩ノ客ニモ同前也。花御入候テ、後茶ヲ立ルナリ。花ノホ先ハ、茶立口ノ床ノ柱ノ方ニスル也。花入ノ釘ノ方ヘ花ヲ本ヲスル也。

23一、亭主花ヲ貴人ヘ所望仕候テ、貴人花ヲ御入候時ハ、亭主ノ入タル花ヲ見ル如ク見ルハ悪也。念ヲ入、見申カ能由ニ候。併御花入申ナト、ハ不申物也。次ノ人ノ顔ヲ見候テ、少頭ヲ下ケ候得ハ、貴人ヨリ花入候ヤト、御意有時、ソコニテ頭ヲ下ケ見ルヤウニ仕物也。5ウ

24一、唐物立ノ時ハ、引切ヲ炉縁ヨリ三目、カキタ、ミノヘリヨリ三目ホトニ置。柄杓ノ柄先キ四目ホト置テ、茶碗ヲ置也。茶碗ヨリ茶筥取出シ候時、柄杓ノ柄先キニ置也。茶センス、ギシテモ、柄杓ノ柄先ニ置也。濃茶立候テ振上ケ、右ノ手ヨリ左ヘ移シ、水覆シノアトニ置也。又薄茶立候テモ水覆ノアトニ置也。取置申時ハ、柄杓ノ柄先キニ置也。

25一、茶碗ヲ持テ出、水覆シノ置所ノ少先キヘ寄置也。但置合モ置也。
26一、茶立ル時、先ツ盆ノ茶入ノ置所ヘ右ノ手ニテ引出ス。扱茶入ヲ右ノ手ニテ取テ前ニ置、フクサ物ヲ取出ス。扱水コホシノ上ニテ扱テ、盆ヲ左ノ手ニテ取、フクサ物ニテ、盆ヲ中ニツツホト扱テ、フクサニテ向ノ方ヨリ前ヘフキ、盆ノ中ホトフクサニテ、初二引出シタル処ニ置、フクサ物ヲ懐ヘ入ル也。扱茶入ヲ袋ヨリ取出シテ下ニ置

キ、袋ハ釘ニ掛テ、フクサヲ右ノ如ク扱テ、茶入ヲ左ノ手ニテ取り、フキテフクサハ懐ヘ入。茶入ヲ右ノ手ニ6オ」取直シ盆ニ置。後迄唐物ハ右□^(唐)手ニテ取テ置也。

27 一、茶碗ヲ茶立所へ直シ、水コホシ・柄杓・引切ヲ勝手ヨリ取出シ、水覆ノ在リ処ニ置キ、勝手ノ障子ヲシメル也。扱水覆ノ上ノ柄杓・引切ヲ取、右ニ如レ記置。扱茶杓ヲフキ、盆ノ上ノ左ノ方ニ、茶杓ノカイヲ上ヘナシテ置也。茶入ノ蓋ハ、盆ノ右ノ角ニ置也。

28 一、取置事。濃茶ヲ立薄茶ノ時、先御納候得ト、客ヨリ時宜アリ。薄クマイリ候得ト、亭主ヨリモ時宜アリ。立ル時ハ、茶入モ右ノ置合ノ所ニ置、立ヤウ如右。薄茶立候テ納申時ハ、茶入モ右ノ置合ニ直シ。茶ワンへ、茶巾・茶筌・茶杓ヲ置。右同前ニ置合テ、釜へ水ヲ差シ、釜ノ蓋ヲシメ、柄杓ヲ引切ニ掛、水差ノ蓋ヲスル処ニテ、茶入御出シ候得ト、客ヨリ時宜アリ。茶入出ス時、右ノ手ニ取テ、左ノ手ニ取直シ、蓋ヲ取り、フクサニテ茶入ノ口ヲフキ、蓋ヲシテ右ノ手ニ取、客へ出ス。請取中ニ置、見候テ、二番目ノ人見申時、盆ヲ御出シ候得ト申時、フクサニテ盆ノ内ヲ6ウ「モ、廻リヲモ、ザット扨テ、フクサニテ持出シ候也。其時、客フクサモ御出候得ト申、フクサニテ盆ヲ持見ル物也。次々モ同前。扱客、茶入ト盆ヲ亭主ニ床へ御直シ有レト時宜アリ、亭主客へ御直シ有レト申時ハ、客、茶入ヲ盆ニスへ直ス也。直シ様ハ、先ツ盆ヲ取、フクサニテコキ、即フクサ物ニテ下ニ置、茶入ヲフキテ、盆ノ上ニ右ノ手ニテ置。扱床ノ前ニロクニ居直リ、両ノ手ニテ床ノキワへ引寄。花入床ニ有時ハ、床ノ左ノ地敷居ヨリ四寸、床カマチヨリ十七目ニ置。墨蹟掛リタル時ハ、三ノカネアリ。先ニハ、墨蹟小ナレハ、墨蹟ノ左ノ方ノ軸先キト、盆ノ左ノ方ノハヅレト同。二ニハ、掛物中ナレハ、左ノ方ノ軸ハヅレ、盆ノ中ト同。三ツニハ、墨蹟大ナレハ、盆ノ右ト、墨蹟ノ左ノ軸ト先ト同カネ也。○扱亭主出、忝ト時宜有テ、前ニ濃茶計

ニテ、薄茶立ザル時ハ、水サシヲ出ス。水差ノ出シヤウハ、先水指ヲ持テ出、左ノ壁へキワニ立ナカラ置。扱下ニ据テ右膝ヲツキ、左ノ膝ヲ立、水サシノ置所ニ置ヒザヲ直シ、扱茶碗ト7オ「中次トヲ持テ出、置合テ、面桶ノ中ニ引切ヲ入。柄杓ハ、面桶ノ上ニウツフケテ置、勝手ヨリ取出シ、障子ヲシメテ茶ヲ立ル也。其時ハ茶入有ルル出ス事悪也。中次ニテモ、棗ニテモ能由ニ候。袋ハ不謂事也。薄茶過テ、亭主へ炭所望スル所、又亭主ヨリ客へ炭所望スル処ハ此処也。

29 一、茶入ヲ床へ直シ候得ト、客ヨリ時宜ナキ時ハ、茶入ヲ右ニ持、左ニ盆ヲ持、勝手へ入ル也。

30 一、茶入ノ盆ヲ、客コイ見候時、能袋ナレハ、客所望スル事也。客茶入ヲ亭主へ返し申時ハ、亭主茶入ヲ出処ヲ能覚、返ス時茶入ノ前ヲ亭主ノ前へシテ置也。盆ハ茶入ト並テ四目ホト間ヲ置也。但茶入カギダ、ミノカベキワ五目、盆ハ茶入ヨリ四目置、炉ト茶入トノ間ニ置也。袋ハ、ツカリノ方ヲ大目ノ方へシテ、茶入ト盆ト袋ト、三カナワニ置也。亭主取テ入ル時ハ、右ノ手ニテ茶入ヲ取、勝7ウ「手へ入也。盆ノ上ニ袋ヲ置、勝手へ入也。

31 一、貴人へ茶入掛御目申時ハ、炉辺出ノ能由ニ候。唐ノ茶入計出ス。盆アリル不出事アリ。盆アリト知ル時ハ、茶入所望シテ請取、上座ヨリ二人ホトニ渡ル時、盆ヲ所望スル也。

32 一、濃茶立テ後薄茶ノ時、先取置候得ト、御意アル時ハ、御相伴ノ人ノ方ヲ見テ手ヲツキ、時宜仕時、重テ納候得ト、御意有時ハ、御意次第ニ取置テ能由ニ候。

33 一、御茶過亭主へ礼ヲイワヌ物也。貴人茶能候ト、御意有時、御主へ

礼ヲスルナリ。

34一、亭主ヨリ御炭ヲ所望仕時ハ御辞退アリ、其時御相伴衆、亭主達テ申上間、先私シ釜ヲ上ケ可申ト云テ亭主置候。足打ノ炭ヲ、カギタ、ミ8オ」ノ上へ直シ釜ヲ上ケ、ハンダヲ勝手ヨリ取出シ、下火ヲ能比ニ置。炉中ヲハ直サス、羽箒ニテ掃ヌ物也。扱ハンダヲ勝手へ入、ホウロクヲ取出シテ、置所ハ茶立口ノ立ツメニ四目ホトニ置。風炉先ノ窓ノ方へハ、二寸五分ホトノ間ニ置也。炉中ハ貴人ノ御作分次第ナリ。扱貴人タイ目へ御坐候テ、炭ヲカギダ、ミへ御直シ、御炭ヲアソハサル也。

35一、客ヨリ炭所望シ釜ヲ上ケ申時、客ヨリ下火ヲ御取り候得ト申物ナリ。亭主下火能候ト、時宜ヲ云也。客重テ下火御取候得ト時宜アル時ハ、勝手へ立、前カドヨリハンダヲ拵へ置候ヤウニ、其儘持出ルハ悪シ。ハンダノ下炭入候ホト、間ヲ置テ持出テ能候。下炭ヲ底取ニテ押付テ置ガ能候。サナク候得ハ、炉中ヨリ火ヲ上ケ候時、ホコリ立物ナリ。客ヨリ底取候得ト、時宜之無時ハ、底ヲ不取物也。8ウ」

36一、如此置合ル時ハ、客へ御茶立可申カト申、面桶ヲ左ニ持、右ノ手ニテ柄杓ノ節ノ処ヲ持、ガウヲ俯テ、面桶ノ上ニカザスヤウニ持テ出テ居直リ、面桶置処ニ置。柄杓ヲ左ノ手ニ仰テ持、引切ヲ初ハ左ノ手ニ取、右ノ手ニテ柄杓ノ柄ノ下ヲ走ラカシ、カギダ、ミノ炉縁ヨリ三日、又大目ノタ、ミノ縁ヨリ三日ホトニ置テ、柄杓ノ柄ヲ筋違テ置。茶碗ヲ立所へ直シ、盆ヲ両ノ手ニテ引出シ、前ニ如記、盆ノ中ヲ払い、引出シタル所ニ置也。但茶ノ立ヤウハ前ニ記也。

37一、如此飾置候時ノ手前ハ、先柄杓ヲ右ノ手ニテヲロシ、左ノ手ニ渡シ、節キワヲ仰テ持、右ノ手ニテ引切ヲカギダ、ミノ三日、大目タ、ミ

ノヘリヨリ三日ホトニ置。柄杓ノ柄ヲ節ノ処ヲ取り、引切ニ掛置。面桶ノ中ニアル茶碗ヲ茶立処へ置、ロクニ御坐候得ト、客ニ時宜有テ、盆ヲ前ニ如記出立ルナリ、又柄杓ハ下ノ棚ニ置也。9オ」

貴人ヨリ御茶被下時路次入之次第

38一、朝トク待合マテ参リ待申也。上坐ノ人、大戸ヨリ先へハイリ、其次、段々ニ腰掛ノ前ニ跪居テ能由ニ候。

39一、御主ノ御茶被下候時ハ、刀ヲハ大戸ノ外ニ持セ置キ、脇差計刀掛ニ置候由ニ候。内路次へ入、腰掛へ行、路次ノ体ヲ見渡シ、雪隠ヲ見、先へ入申人、目通過候テ、独ツ、雪隠ヲ見ル物也。但シ跡ヨリ入人ハ、腰掛ノ前ニ跪居テ能由ニ候。其時ハ先へ行人、時宜有テ、能々手水鉢ノ前ノ石ノ上へ先ツ上ラス、其所ヨリ景ナトヲ見テ、扱前石へ上リ、心ヲ付申由。又手水鉢ノ前へ一度ニ行事悪ク候。独ツ、間ヲ置テ見ルカ能由ニ候。

40一、坐入ノ時、クヱリノフミ石ニツクバイ、ニジリ上リ戸ヲ、如何ニモ静ニアケテハイリ、雪踏ヲ直シ、座敷ノ内ヲ見テ、ハイリ申時モ相客ニ時宜有。9ウ」

41一、坐入ノ時、釜ノ心持。夜深テ勝手ニ仕カケ、タギリ申時、客ノ来ル前ニ坐敷ノ炉へ釜ヲカケ、蓋ヲ取見テ、湯多候得ハ、柄杓ニテ二モ三モ汲捨テ能由ニ候。湯多候得ハ、後水サス時ノ手前悪候、其心持ハ、早仕カケテ湯へリ候ト、客ノ見ルヤウニ仕物也。

42一、貴人ノ御茶之時ハ、内腰カケニ腰ヲ掛ルハ悪也。貴人ノ御茶ニハ早ク仕舞、手水ヲモ遣、腰掛ノ前ニ跪居テ能由ニ候。

43一、内へ入り床ノ前へ行、手ヲツキ墨跡ヲ見テ、扱大目へ行申時モ、

墨跡ニ心ヲ残候ヤウニシテ大目へハ入り、二重ノ棚ニ香箱・羽箒飾時モ有也。此棚ノ飾ヲ能見覺ル物也。夫ヨリ炉中ノ釜ヲ見テ、坐敷へ直ル也。其時、御主御出被成御挨拶被成迄ハ、手ヲツキ頭ヲ低テ御礼シテ居申物也。御主御挨拶被成候ハ、上坐人御挨拶申物也。10オ

44一、貴人御挨拶被成、炉中へ御寄候テ、炉ノ縁ノワキ前ヲフクサニテ御払候テ、炭取ヲカキタ、ミノ上ニ置レ、灰ホウロクヲ勝手へ御取り入、棚ノ環・羽箒・香箱御取ヲロシ、御炭置レ候テ、炭御直シノ時、釜ヲ御上ケ候時、一人ツ、寄、下火ヲ見テ、又炭御置候時ハ、大炭二ツホト御置ノ刻、又独ツ、寄テ能由二候。立カ、リ見申事悪シ。御炭ノ時、始中終手ヲツキ、頭ヲ低テ居申ガ能由二候。

45一、主人御茶ヲ立被下候時ハ、手ヲツキ御手前ヲ能見申物也。茶碗ヲ如何ニモヒキク頂キ、御主ノ御前へ向テ頂申也。勿論フクサ添被下ハ、其儘頂キ中ニ置、色ヲ見テ、フクサハ下ニ置飲申物也。扱次へ渡時モ貴人へ向イ頂キ、茶碗ヲ下ニ置テ、次ノ人へ礼ヲ仕事悪キ也。又次々モ同前ナリ。二番目ノ人飲候時、フクサヲ取テ上ルナリ。10ウ

46一、御主ノ御手前ノ時ハ、三帖大目ノ時ハ、上坐一人ハ、ニジリ上リノ戸アトノ角柱キワニ居テ能候。又六人モ有時ハ、一人ハ通口ノ向ニ居テ能由二候。御茶被下候後、御茶立申ナト、不申物也。薄茶ノ時モ、御取置被成候ヤウニナト、不申物ナリ。相客ノ方ヲ見テ、手ヲツキ、頭ヲ低候得ハ、取置へキヤト御挨拶アル也。

47一、御茶入の請取三処アリ。茶碗御ス、ギ、茶巾・茶筌・茶杓御置候テ、右ノ置合処ニ、茶碗ト茶入ト御直シ、釜へ水御サシ候テ、釜ノ蓋ヲ

御シメ、引切ノ上ニ柄杓ヲオカレ、水サシノ蓋ヲ被成候時、手ヲツキ頭ヲ低候得ハ、茶入カト、御意有也。此所一也。又茶セン御ス、キ候テ、茶碗ヲフキ、茶巾・茶筌ヲ茶碗へ御入候テ、茶杓ヲ茶碗ノ上ニ御置候処。是一ツ也。又茶碗へ茶巾・茶筌・茶杓御置候テ、置合所へ茶入置候。是一ツ也。以上三ノコイ（請）所如此。併水サシノ蓋御シメ被成候時カ能由二候。是ハ御仕舞被成候、御手前ヲ能見11オ

48一、御茶入見候テ上ケ申所ハ、右御茶入御出シ置候処也。御茶入ノ前ヲ能見覺候テ、御主方へ向置テ能由二候。

49一、後ノ炭所望ノ処ハ、御道具勝手へ御取入候テ、御挨拶ニ御出ノ時、相客方ヲ見テ、頭ヲ低候得ハ、炭カト、御意有。後ノ炭ノ時、釜ノ置処曲柱ト出カベノ間、横竹ノ下、地敷居ヨリ五目。此処ニ少ネチ廻シテ置也。坐ヲ立時ハ大目・炉中・床ヲ見テ立物也。

50一、客五人疋有ハ、二本ノ障子ヲハズスベシ。三人マテハ床ノ方ヲアケテ通イスル也。

同輩之衆路次入之事

51一、二重路次ナレハ、外路次へ入、相客ヲ待合、朝・昼・晚疋二同也。亭主出、互ニ時宜有テ、亭主戸ヲシメル迄客不立物也。相客ニ時宜有テ、扱路次ノ戸ヲアケテ11ウ入、後ニ入客戸ヲシメル也。先雪隠ヲ見、夫ヨリ次第々々ニ見ル。路次ニテ相客ヲ待合ル心持、何レモ植木・石ナトニ心ヲ可付、朝・昼・晚疋ニ客揃イ候テ、待合ヲ見入候事悪シ。亭主迎ニ出ルニ時違物也、何ソ中立ノ時、見申間不入事也。但客ソロイ不申内ハ、待合ニ待カ能由二候。

52 一、亭主客ノ迎ニ出ヤウハ、内ク、リヨリ外ヘハ不出。戸ヲアケテ、

互ノ時宜有テ、敷居ヲ鼻カミ一折ニザツト拭テ、鼻カミヲ右ニ持テ、戸ヲシメテ内ヘ入也。敷居ヲ不拭候得ハ、シヨナキ由ニ候。

53 一、客手水鉢ノ前石ヘ上リ、石ニ氣ヲ付、水ニ心ヲ付、其処ヨリ景ヲ見、心ヲ付クベシ。併手水ヲハ不遣也。扱刀掛ニ刀・脇差ヲ置也。先ヘ入人、ニジリ上リニテモ相客ニ時宜有。扱ツクバイ、戸ヲ如何ニモ静ニアケテ、先ツ坐ニ心ヲ付。扱内ヘ入、雪踏ヲ直シ、夫ヨリ床ニ氣ヲ付、床前に行キ、手ヲツキ墨跡ニテモ、花ニテモ見ル也。12オ」扱大目ヘ行テ釣棚ヲ見テ、扱炉中ヲ見ヲ見ル。坐敷ニ直リヤウ、先ヘ入タル人、初ヨリ上坐ニ不レ居也、脇ノ方ヘ披キ、二番目迄モ脇ニ居候テ、三人目ノ人大目ヘ入タル時分、先ヘ入タル人上坐ニ直ル也。如此ナケレハ、坐ツマリテ、後ノ人難^レ入、其上床・大目ナト後ノ人見ニクシ。但、坐ニヨルベシ。

54 一、亭主勝手障子ヲアケテ出、互ノ時宜有テ、亭主ノ方ヨリ先ツ雑談ヲ仕掛ルナリ。亭主ヨリ雑談ナキ以前ニ、客ヨリ放シカケル事不可有之也。然テ亭主炭ヲ持出、釜ヲ上ケル、其時客寄テ下火ヲ見ル也。扱退クナリ、炭一ツツホト入申時、又寄テ炭ヲ見時相客ニ立塞ラザルベシ。互ニ心持入ル事也。先上坐ノ人、相客ニ氣ヲ付ル^レ専也。炭ヲホメヌ物也、氣ヲ付ル迄也。炭仕舞候テ、勝手ヘ入、物ヲ皆人、水ヲ次キ、障子ヲシメ勝手ヘ入。扱亭主通口ヲアケ、会席ヲ出シ可申ヤト、時宜ヲ云物也。ソコニテ亭主、之ハ一人ハ大目ヘ御直リ有レト申時ハ、七人12ウ」内一人ハ、通口ノ向ニ、炉ノ方ヘ向ヒ直ル也。一人ハ大目ノ棚ヲ後ニシテ、クワトウ口^(火)ヘ向ヒ居ル也。又色^(紙)シ窓ヲ後ニシテ居ル^レモ有リ。右不知人ハ、七人詰ノ時ハ大目ヘ客

一人入ル物ト聞候得^レ、炭ノ前ニハ大目ヘ不入物也。

55 一、亭主膳ヲ持出ル時、客頂キ置也。扱膳ニ氣ヲ付ル、重箱ノ中ナトニモ心ヲ付ヘシ。汁通フ時ハ、蓋ヲ盆ニ乗テ出スヘシ。扱亭主膳ヲスヘ候得ハ、上ル時モ亭主上テ能候。其時ハ、客ゼンヲ頂キ、亭主ヘ渡ス也。膳ヲ出シ、蓋ヲ取カラ、引物ハユル^レト出カ能由ニ候。

56 一、通仕候事、上坐ノ人之汁ヲ替持テ出テ、二番目ノ汁ヲ取、カツテ二置、三番目ノ汁ヲ取テ、初ノ二番メノ汁ヲ持テ出。四番目ノ汁ヲ取テ、三番目ノ汁ヲ持テ出、五番・六番迄同前也。皆此心持ノ通能由ニ候。又汁通申時、客ノ残ス物ヲハ重テ不入物也。引物モ客ノ手ノ不付物ヲハ、酒ヲ出シ、上坐ノ前13オ」ニ置テ勝手ヘ入候時、取テ入ル物也。茶菓子ヲ出シ、障子ヲシメル也。客茶請迄喫^レ縁高ニテモ、重箱ニテモ、勝手ノ口ヘ寄テ置、扱坐ヲ立也。

57 一、中立ノ事。上坐ノ人先ヘ出ル也、下坐ノ人立退テ、上坐ノ人ヲ出ス、是モ坐ニヨルヘキカ。大抵如此ニ候。

58 一、腰掛ヘ行、上坐ノ人、後ノ衆ニ時宜有。但心安キ衆ハ格別タルベシ。但坐ニ直ル如ク、上・中・下ニ居ル物也。鏡鳴リテヨリ腰掛ヲ立テ、円坐ニ氣ヲ付、後ノ人、前廉有タル如クニ組置物也。手水ヲ遣テ坐入、初ト同前。床・大目・炉中ヲ見ル。但大目ノ置合ニ能氣ヲ付見ル。炉中ハ初ホトハ不見也。坐ニ居事如右。但初ト替リ居ル坐モアリ。坐入ノ時モ如^レ初、末ノ人戸ヲシメテ入也。

59 一、亭主茶ヲ立テ、取置候テ、客帰申時モ、末ノ人戸ヲシメテ出ル也。扱亭主モ、客ノ出ルヲ外路次ニテ待、互ノ時宜有テ別也。13ウ」60 一、七人詰ノ坐入ハ、ニジリ上リノ、向ノ角ノ柱キワガ上坐也。其時ハ、通口ノ二枚障子ノ立詰迄ニ五人、通口ノ二枚障子ノ敷居ノ外ニ二人

居ル也。

61 一、一人客ノ時ハ、下坐ニ直リ候。但下坐ハニジリ上リノキワ也。亭主出テ、御通り候得ト云時、夕、ミ半帖ホト中へ寄テ能候。其時ハ、多分相伴出ル物也。

62 一、坐入ノ時、床ニ如此掛物ヲカケ、上棚ニ炭取ト火筋ト環トヲ置、下タナニ羽箒ヲ置也。其時炭取ヲロシ、左ノ手ヲツキ、カキタ、ミノ中ニ、右ノ手ニテ置キ、羽箒ヲ取ヲロシ、大目トカギダ、ミヲマタケ、四目ホトニ置。ホウロクハ勝手ヨリ取出シ、置所ニ置也。火筋・環ハ常ノ処ニ置也。

63 一、唐ノ香箱カ、又ハ珍敷香箱ナラハ所望シテ見ル。処ハ炭ヲ置、薰物ヲクベルナリ。春ニ成、風炉不レ上以前ノ炉ノ数寄ニハ、伽羅ヲクベル也。其時、香箱ノ蓋ヲスル処テ、香箱御出シ候得ト、所望スル也。14オ」

64 一、茶立ル時ノ坐ノ事。上坐ハ、床ノ右ノ柱ノキワニ居候。次ハ中ヲアケ、通イ口ノ向ニ居テ能候。夫ヨリ段々ニ居ル也。茶ヲ出ス時ハ、床ワキノ人、フクサヲ添へ取、中ニ置、色ヲ見テ飲也。惣別、茶ノ飲ヤウハ、上坐ノ人ヨリ下坐迄マワルホト、加減シテ飲也。又茶色ヲ見ルトモ、細々見候得ハ、下坐へノ不礼也。二度ホトハ見テ能候。切々不可見也。

65 一、晩ノスキニハ如此節也。客日ノアル内ニ来候得ハ、墨跡ノ下ニ花ヲ入ル也。日入テ来ル時ハ、墨跡計置也。花ヲハ取也。其時ハ、棚ニ羽箒ト、環トニ色置也。花アル時ハ環ヲ不置也。又日ノ高内ニ坐入アル時ハ、花ヲ初二入、墨跡ヲ中立ノ時、掛ルトモアリ。其時花入一色ナレハ、棚ニ色置也。皆坐入ノ事也。

66 一、夜ノ路次入ハ相客ニ時宜仕事如常。但腰掛ニ暗灯トホシテ有時ハ、其暗灯ヲ取テ、雪隠ヲ見也。扱相客へ次第ノ二渡ス。何モ不殘見テ、其後長14ウ」路次ニテ先暗キ時ハ、先へ入ル客持テ行。刀掛ノキワニ置ク石アリ、夫ニ置テ刀ヲ掛ル也。後ノ客、暗灯ヲ取テ、刀掛ノフミ石ニ置也。氣ノ付ヤウ右ニ同。又灯籠トホシテ有時ハ、亭主置タル処ニ置也。但腰掛ノ切目ヨリ、三寸ニモ三寸五分ニモ置也。壁ギワヨリ、杉桁三枚ホト間ヲ置テ能候由ニ候。

67 一、夜会坐ニ暗灯・短檠置事。火先ヲ釜ノ方ヘシテ、大目ノワキノ出壁ノトヲリヨリ、二寸ニテモ三寸ニテモ能由ニ候。夕、ミノ目、二ツ三目モ出ス也。灯芯ハ、角ノ方ヘハネヲ置カ能由ニ候。暗灯ノ置所ハ、出カベヨリ三寸出シ、カベギワノ夕、ミ、三目ニ置候テ能候。但暗灯ノ手ノ下ニ、火口ヲスルハ悪候。角トハ、手ノナキ方ノ角ノ事也。扱夜ハナシテ炭置時ハ、手燭ヲ持出テ、置所ハ中柱ノ方ノ炉ノ近ク、火ノフチギワニ、中ホトニ可置也。又柄杓ヲ水サシノ上ニ置事、如図也。

68 一、夜会ノ茶ヲ立事。置合ヲ置候テ、手燭ヲ亭主持出、手ノ方ヲ先ヘシテ、15オ」カキタ、ミノ真中ニ置。水覆シニ引切。柄杓ヲ置、如此柄杓ヲ直シ、水覆シノ閉目ヲ客ノ方ヘ筋違テ置。茶碗ヲ茶立ル所ニ置、茶人ヲ我前ニ取ルナリ。袋ノ置所ハ、風炉先キノ窓ト、色紙窓トノ角ニ置テ、茶入ヲハ、フクサニテフキテ、常ノ所ニ置也。夜会ノ時ハ、袋ヲ釘ニ掛ルハ悪也。天目ニ湯ヲ入覆シ、又一柄杓半入、茶筌ヲ一二度ホト天目ノ中へ押ツクルヤウニシ、天目ノ前ノ方ヘ茶センノ軸ヲ持セ置。茶巾ヲシホリ、フクサメテ、水サシノ上ニ置。茶筌ヲ置、湯ヲ覆シ、茶碗ヲフキ下ニ置。ソコニテ手燭ヲ右ノ

手ニ取、左ノ手ニテ曲柱ト、水サシノ間ニ手ヲ先ヘナシテ置、茶ヲスクヒ入立也。客、茶ヲ取手燭ヲ請時ハ、カキタ、ミノ中、右ノ手燭有所ニ、手ヲ先ヘナシテ出スナリ、但夏ハ夜会ナキ物也。

69 一、茶碗ヲ煖メ、釜ノ蓋ヲシメルヲ。口切ノ時分ハ、一柄杓湯ヲ汲テ

茶碗ニ入ナリ。15ウ」又一柄杓半モ入レテ、釜ノ蓋ヲシメル也。霜月ヨリ正月迄ハ、先一柄杓汲テ入、夫ヲ兩ノ手ニテ少振テ捨、又一柄杓半汲テ入テハ、釜ノ蓋ヲシメテ茶筌ス、キ如常。

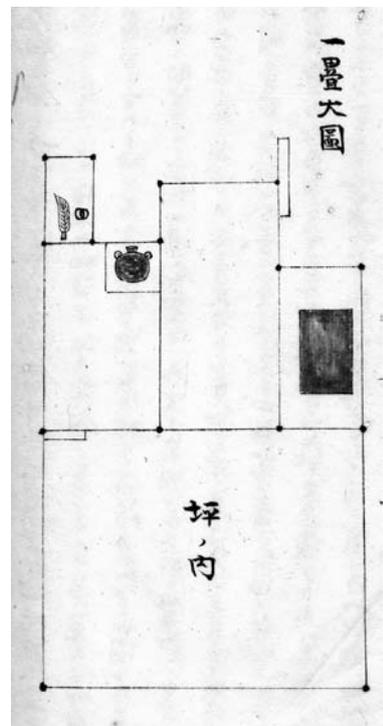
70 一、四畳半ノ坐入之時ハ、置合ニ炭取ニ火筋ト、環ト、香箱ヲ入候テ如図置ナリ。其時ハ、羽箒ヲ如図置テ能由ニ候。又坐ニ袋棚ヲ置時ハ、置所ハ、亭主ノ茶立所ノ左ノ方、炉ノ縁ヨリ九寸五分、先ヘ寄テ置也。又一尺疋云ヘリ。其時ハ、袋棚ノ置ヤウハ、棚ノ右ノ方ハ、畳ノヘリヨリ四目間ヲ置テ能由ニ候。

71 一、茶立時ハ、如此取并置テ立ル也。水サシノ置所ハ、畳ノ頭ヨリ、水差ノ後通五寸一二分ニモ置也。茶入・茶碗ノ置所ハ、水サシノ前ニ置ナリ。如「中ノ図」也。炉ノ切様ハ、此坐ノ時ハ、半畳ヲ中ニノ炉ヲ入也。

72 一、取置様ハ、茶碗・茶入右ノ如置合ノ置也。茶入ヲ客請イ申時ハ、茶碗計右ノ置合ノ所ニ置。柄杓ノ節ノ処ヲ右ノ手ニ取、引切ヲ左ノ手ニ取、柄杓ノ柄下ニ持。16オ」扱水覆シヲ左ノ手ニテ持テ、障子ヲアケル時ハ、水覆ヲ下ニ置テアケテ、勝手ヘ取テ入也。

73 一、一畳大ノ釜ノ入所ハ如図。坐入ノ時ハ如此飾事モ有。又色々有也。

一畳大図



坪ノ内16ウ」

74 一、同中立ノ時ノ坐入ノ飾如此。棚ニ茶入ト羽箒ト置。水サシヲカギ畳ノ真中ニ置。茶碗ヲ水サシノ前ニ置時ハ、面桶ニ引切ヲ入、柄杓ヲウツムケテ、右ノ手ニ、節ノキワヲ持、茶立所ニ居直リ、引切ヲ炉ノキワヨリ、四目ホトニ置テ、柄杓ノ柄ヲスクニ置、茶ワシヲ直シ立ル也。

75 一、同又如此置合時ハ、水サシノ前四目アケテ、茶入・茶碗ヲ如此置。柄杓ハ我前ヘ口ヲナシテ。引切ハ前ニ置。面桶計持テ出テ立ル也。

76 一、同取覆シ立ル時ノ図如此也。又唐物立ノ時ハ、水サシノ前ニ、茶入ヲ盆ニ乗テ、水覆シノ有ル所ニ茶碗ヲ仕入置テ立ル也。別替事ナシ。

鎖之間之次第

77 一、書院床ノ天井ノ真中ニ折釘有、此釘ハ四角ノ折釘也。天井ヨリ六分サガル。又釘ノ横手五分也。折廻テ、上ノ方ヘ四分カ、メタル釘ニテ、丸キ坐アリ。是ハ関鐘（巻）17オ」ヲ掛ル釘也。書院床ノ、右ノ

柱ニ、大ワヨリ八寸サゲテ折釘并テ二ツ打也。間七分ナリ。是ハ、シモクヲ掛ル所也。柄ハ二ノ釘ノ間ニ有。シモクハ二ノ釘ニ掛ル也。

78 一、鎖ノビルカギハ、上檀ノ方ヘカギノ先ヲ成テ打也。二重グサリハ上ケ申時モ、炉中ヘ下ケ申時モ、鎖高クカケ拳候テ、ロクヲ直シ、扱下ケテ掛ル也。又ハ釜^シ拳申時モ、二重鎖ハ、釜ノ鉸ヲ左ノ手ニ持、上ヘ掛ル物也。其時ハ、釜ノ鉸本ヲ左ノ手ニテ取、鎖ノカギヲ、右ノ方ヘ手ヲカケ上ル物也。釜ハ、袋棚ノ左ノ柱ヨリ、四目五目ホト前ニ置。又壁ギワヘ五目ホトニ置。鉸ハ鎖ヘ掛ル所、袋棚ノ方ヘ置。二重ノ鎖ハハヅシ、鉸ノ中ニ置也。又ワキニ置事モ有。釜ト鉸トノ間ハ、四目ホト有也。此時ハ、先ニ二重ノ鎖右ニ如^レ記、高ク掛置也。扱鉸ヲハ釜ノ環ニ掛、如^レ常ノ。炉中ノソバヘ引寄、左ノ手ハ左ノ環ノキワヲ持、右ハ鎖リニ掛ルナリ。脇ヲ持テ鎖ヘ掛ル也、鎖ノカギワキヘ向キ申時ハ、三ノ指ト大指トニテ抱ヘ、二ノ指ニテカギノ向キヲ置物也。鎖リユルキテ、17ウ」釜ロクニナクハ、左ノ手ニテ、カギノ通りヲ抱ヘ、右ノ手ニテ、鎖ヲシラフル也。

79 一、袋棚ニハ引切悪由ニ候。何ニテモ金ノ蓋置ナリ。又水指モ新キハ悪由ニ候。併無之時ハ新キモ不苦也。

80 一、同飾之事。柄杓ハ、高架ニ柄先キ端ヨリ、二寸五分ホトニ、真直ニ置也。蓋置ハ、水サシノ左ノ前角ニ置也。但カネノ蓋置也。茶入ハ開キ、棚ノ上ニ置也。但中次ヲ置時ハ、紙ヲ四ニ折テ、中次ノ下ニ敷テ置也。茶ヲ立ル時ハ、中次ヲ取ヲロシテ、紙ヲハ袋棚ノ中ヘ入ル也。又茶入・茶碗ヲ一所ニ棚ニ組置事有。又面桶ニ茶碗ヲ仕入、此処ニ置事モアリ。

81 一、茶立ル時ハ、茶碗ト茶入ト棚ニ置時ノ手前ハ、面桶ヲ持テ出テ、

其所ニ置キ、茶碗・茶入ヲ両ノ手ニテ、下ヘ取ヲロシ、置所ハ水サシノ左ノ通りニ茶入ヲ置。茶碗ヲ四目ホトニ間ヲ置、袋棚ノ方ニ置也。扱柄杓ヲ右ノ手ニ取り、左ヘ直シ、棚18オ」ノ下ノ板ニ有蓋ヲ、炉ノ右ノ角ヨリ七寸退テ、タ、ミノ縁ヨリ二目ニ置。蓋置ヲ置テ、柄杓ヲ掛ケ、扱茶碗ヲ茶立所ヘ直シ、茶入ヲ我前ニ置。袋ヲ取、雨覆ノ左ノ端ニ、三日ホトニ置テ、ツカリヲ先ヘスル也。扱フクサニテ茶入ヲフキ、水指ノ前ニ置。茶筥ヲ茶入ノ右ニ置、柄杓ヲ取り、釜ノ蓋ヲフクサニテ取り、蓋置ニ置。其ノフクサニテ、其儘中ノ棚ノ左ノ角ヲ払ヒ、ソコニ茶巾ヲ置也。後ハ釜ノ蓋ノ上ニ置事モ有。又水コボシニ茶碗ヲ入タル時ハ、茶入ヲヲロシ、水サシノ左ノ方ニ置キ、水覆ノ茶碗ヲ取出シ、茶立所ニ置。扱茶入ヲ右ノ手ニ取、前ニ置、袋ヲ取りテ開キ、タナニ置。但上ノ雨覆ニモ置也。扱茶入ヲフキテ、水指ノ前ニ中墨ヲ四目アケテ、左ノ方ニ置。水覆ニ有茶ワシヲ取テ、立ル所ニ置。扱茶杓ヲフキ、茶入ニ掛ケ、茶センヲ取テ、茶入ノ次、炉ノ方ニ置。茶入トノ間四目ホト也。扱柄杓ヲ右ノ手ニテ取、左ノ手ニ直シ、我居ル畳ノ、右ノ方ノ炉ヨリ七寸ホト間ヲ置ナリ。18ウ」但、ヘリヨリ二目我前ニ置ク。蓋置ニフクサニテ、釜ノ蓋ヲ取テ置。其フクサニテ、中ノ棚ノ左角ヲ払テ、茶巾ヲ置也。

82 一、同又、唐物ハ盆ニ載テ置時ハ、雨覆ノ上、少右ヘ寄テ置也。如^レ図也。此時、立ニモ水覆ニ茶碗ヲ仕入、持出テ下ニ置。盆ヲ両手ニテヲロシ、水サシノ前ニ置。サテ茶入ヲ右ノ手ニテ取、前ニ置。盆ヲフキ本ノ所ニ直シ、茶入ヲ袋ヨリ出シテ、盆ノ上ニ置キ。扱水覆シノ中ノ茶碗ヲ取テ、立ル所ニ置。柄杓・蓋置、常ノ所ニ置テ茶杓ヲフキ、

盆ノ上ノ左ノ方ニ置テ、茶筴ヲ取テ、是モ柄杓ノ柄先ニ一目、畳ノ端ヨリ一寸ニ置キ、茶立テカラハ水覆ノシリニ置也。夏、袋棚ニテ立時ハ、風炉ノ如クニ、釜ニ水ヲ二柄杓サシテ立ルナリ。薄茶ハ替事ナシ。

風炉ノ茶立次第

83 一、時ニヨリ、炉ニテモ風炉ノ手前ニ成事アリ。三月ノ比ヨリ、炉ニ大ニ火ヲ不_レ置。19オ」扱又湯タギリ過候ハ、風炉ノ手前ノ如ク釜へ水ヲ二柄杓ホトモサシテ、茶巾ノフクサメ処モ、風炉ニテノ如ク、前廉ニフクサメル心持ヲ仕候テ、可然候。併如_レ此事不知人ニ、如此茶巾サバキ仕候得ハ、却テ致_二失念_一ナト、テ、ケガニ成事モ可有之也。故ニ少ツ、ノ所ニテモ、唯機転ノキク事、可為肝要也。

84 一、風炉ノスキハ茶立口リ通イスル物也。其時ハ、二枚障子ヲモハツシ、又上ノ二枚ノ小戸ヲモハツシ、時ニヨリ、通口ノ畳ヲモ上テ、杉桁縁ヲ能拭。円坐ヲ一ツ置事モ有。又畳ヲ其儘置、障子計ハツシ置事モアリ。其時ノ上坐ハ床柱ノキワ也。

85 一、風炉ノスキニハ正月ノ内ニテモ、上ニ帷子ヲキテ居ル物也。上坐ノ人、扇子ヲ指テ、其人着坐ノ後ニ扱テ置。下坐迄廻テ遣也。

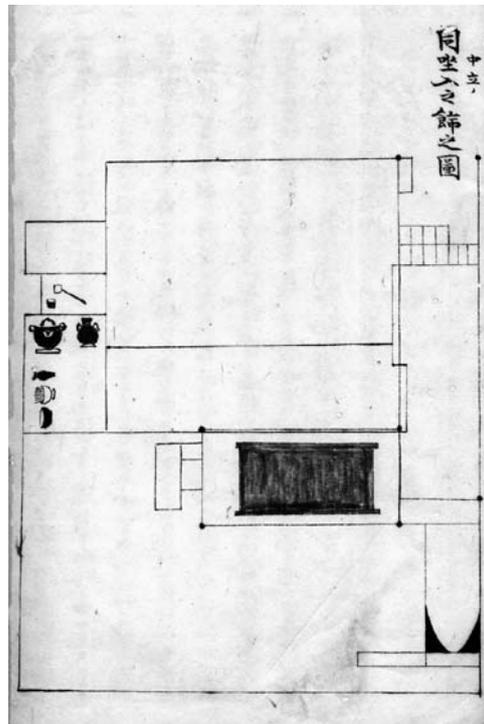
86 一、風炉ノ灰ハ、風炉ノ口ノ上端ヨリ、五分ホト高ク置積リ。土器モ同高サ。19ウ」土器ノ下ヲ欠テ上ハ其儘也。

87 一、風炉ノ小板ハ、曲柱ノ下ノ、地敷居ト真中ニ置也。但釜ノ環付ト、水指ノ中墨ガカネナリ。水指ノ置所ハ、風炉ノ右ノ小板ノ真中ヲカネニ、畳ノ中ニ置也。柄杓ハ下ノ棚ニ置。引切ヲ前ノ方ニ角カケテ置。柄杓ハ、奥ノ方ニ角カケテ口ヲ前へ、但引切ニハ不乗也。柄杓ノ置ヤウ、水サシノ上ニモ置。色々有。

88 一、茶入・茶碗ノ置所、左ノ方ノ壁キワニ置、但ヘリヨリニツ目・三ツ目中へ出シ、茶入ヲ先キ、茶碗ヲ前ニ置、水覆ノ置所ヨリハ先キナリ、置合色々アリ、一様ニ難定也

中立ノ

同坐入之飾之図



(図) 20ウ

89 一、風炉ノ炭見申処ハ、亭主炭ヲ置仕舞、風炉廻リ小板ナトヲモ、羽ニテ払ヒ、炭取・ホウロクヲ勝手へ入、釜ノ蓋ヲ取り、中ヲ見テ即蓋ヲシメ、亭主水取りニ入タル跡ニテ、客一人ツ、大目へ風炉前ヨリ炭ヲ見ル物ナリ。亭主モ勝手ニ扣へ、客ノ見ル間ハ待テ居テ、大目ヨリ坐敷ニ直リ申時也。ヤキ物ニ水ヲ入、蓋ノ上ニ茶巾ヲ置、右ノ手ニテ、鉸ヲ取持テ、左ノ手ニテ、引切ヲ持、釜ノキワニ置。蓋ヲ茶巾ニテ取、引切ニ置。茶巾ニテ、水次ノ口ヲ左ノ手ニテ抱。水ヲサシテ、釜ノ口マワリ・ソコ迄茶巾ニテ拭物也。扱水次ノ蓋ノ

上ニ茶巾ヲ置。引切ヲ左ノ手ニテ据ナカラ、勝手へ入。ソコニテ釜ヲ引廻シ掛ル也。如図風炉ノ時ハ、釜ヲ茶立口ノ大コバリノ跡、竹ノホダテノ処ニ、引廻ノ置也。

90 一、茶立時ハ、柄杓・引切・茶碗・茶入置様、前ニ如記也。水覆シヲ持出、左ノ方ニ置テ障子ヲシメテ、右ノ手ニ茶入ヲ取り、左ノ手ニ茶碗ヲ取、水差ノ中墨四目21才」ホトニ間ヲアケテ、両ニ置也。但置ヤウ、茶碗ヲ先キニ置。扱左ノ手ヲツキ茶入ヲ置、扱左ノ手ニテ、茶碗ヲ風炉ノ右ノ方ニカネニ置也。

91 一、茶入・茶碗・水サシノ前ニ置候時ハ、前後ニヤウニ置ヤウ有。初ノ置合ノ時ハ、茶入ノ右ト、水指ノ右ト同通也。取置申時ハ、水サシノ左ト、茶碗ノ左トヲ同通りニ置候。但茶入ト茶碗トノ間ハ、四目ホトアケ申也。故ニ初ハ茶碗、水サシノ通りヨリ外へアマリ候。後ニハ茶入、水サシノ右ノ方へアマリ候。扱茶入ヲ右ノ手ニ取り、前ニ置、袋ヲ取、釘ニ掛、何モ如常。茶碗ノ初有所へ、茶入ヲナラシ、茶杓ヲフキテ、茶入ニ掛テ、是ハ初茶碗ノ有所ニ置。扱柄杓・引切ヲ右ノ手ニ取テ、左ノ手ニナラシ、引切ヲ左ノ方ノ小板ノ角カケテ、壁キワヨリ三目ニ置也。柄杓ヲ右ノ手ニ取り、引切ノ上ニ、柄杓ハ我前へ筋違置也。茶巾ヲシボリ、フクサメテ、茶碗ノ中へ入。柄杓ヲ右ニ取、左へナラシ、フクサヲ取出シ、釜ノ蓋ヲ取り、其儘小板ヲ二ホト払テフク21才」サヲ懐へ入れ、茶巾ヲ取テ、小板ノ上ニ置也。但風炉ノ右ノ方也。柄杓ヲ右へ取直シ、湯ヲ汲、茶ワシニ入ル也。扱柄杓ヲ釜ノ口へ、柄ヲ我へノ方へ筋違ニ置也。風炉ニテハ、釜ノ蓋ヲシメス物也。湯ヲ捨、茶碗ヲフキ、茶巾ヲ又小板ノ上ニ置。茶入ヲ取、茶ヲ入ル也。蓋ハ茶碗ト我カ間ニ置也。水サシノ蓋ヲ取り、

左ノ壁キワニ水指ノ通りニ置。柄杓ヲ取り、水ヲ二柄杓汲、釜へサシ、其儘釜ノ底へガウヲ入テ、湯ヲ汲上ル也。立テヤウ替事ナシ。

92 一、取置ヤウ如常。茶碗ヲス、ギ、水ハ濃茶計ニテ納ル時、水ニ柄杓・茶碗ニ入ル。濃茶ノ後ニ薄茶立ル時、水一ツ也。柄杓ハ棚ニモ置、勝手へモ持入ル也。

93 一、盆立ハ、茶入ヲ盆ニ載テ、水指ノ前ニ置キ、柄杓・引切ハ下ノ棚ニ置也。茶碗ヲハ、水覆シ面桶ナレハ、中へ入持テ出、下ニ置也。水覆ヤキ物ナラハ、茶碗ヲ下窓ノ所ニ置合也。立ル時、盆ヲ少前へ引出シ、茶入ヲ取テ前ニ置。盆ヲフキ本ノ処ニ22才」置。扱茶入ノ袋ヲ取テ、下棚ニ上ケ、茶入ヲフキ、盆ノ上ニ置。唐物ノアイシライ如常。茶碗ヲ茶立所エ直シ、扱引切・柄杓ヲ棚ヨリヲロシ、風炉ノ左ノ方、小板ノ角カケテ置。扱茶杓ヲフキテ盆ノ上、左ノ方ニ置。茶筴ヲハ水覆シノ先ニ、前後置也。盆立ノ時ハ、風炉ニテモ如炉、釜ノ蓋ヲシメル也。水ヲモサ、ヌ也。

94 一、風炉ニテ柄杓ノサバキヤウハ、釜ノ向ノ方ノ口ニ、柄杓ノ底ヲ掛。柄ノ置ヤウ色ミアリ。一ニハ釜ノ口へ持セテ、中ノ指ニ柄ヲ載テ、ザット前へ手ヲ引、扱手ノ内上へ成ヤウニシテ置也。一ニハ如右、柄杓ヲ、釜ニ持セ手ヲ其儘置テ、持タル指ヲ放シ、大指ノ本ニ柄ヲ載テ、柄杓ヲ先へ、チツトツキ持タル所ニテ、向ノ方へサット切也。一ニハ釜ノ縁ニ不レ引置、大指ヲ、柄ノ下ヲ廻シ上へ成シ、取直ス心ノ、手ノカウノ上ニナルヤウニ置也。一ニハ如此、大指ヲ越テ、手ノ内上へナルヤウニ置モ有也。

95 一、風炉ノ炭ノ時、灰ホウロクニ常ノ灰スクヒ、又小キ灰スクイヲハ、柄ヲ竹ノ皮ニテ巻テ、22才」ホウロクニ入ル也。又風切ノ羽一ツ、

莖ヲ竹ノ皮ニテ卷テ、同入ル也。是ハ風炉ノ前・脇ヲモ、ハクニヨリ入ルナリ。釜數ノ紙ヲハ取出シ、右ノ方ノ小板ノ角カケテ置也。

96 一、風炉ノスキニハ、焼物ヲクヘルハ悪シ。伽羅ヲクベテ能由ニ候。中卓ノ香炉ニモ焼物ヲクベル事悪也。

97 一、風炉ノスキニハ中立ノ時、早ク手水ヲ遣。内ノ腰掛ヘ詰居テ能由ニ候。風炉ニテハ火大二不置故、火加減違也。

98 一、風炉ニハ金火筋能候。木柄ノ火筋ハ悪候由ニ候。水次モ焼物能由ニ候。

99 一、風炉・囲炉裡・台子ニテモ、同輩ノ人ニ濃茶ヲ立。薄茶ノ時、御納候得ト、客ヨリ時宜有時、亭主薄ク參候得ト時宜ヲ云。天目ニ七分ホトニ立、不図出ノ能由ニ候。二服タテハ、又納候得ト時宜有。五六人ホト有ラハ、天目ニ半分ホト立出ノ能候。三服メニハ、客ヨリ時宜ナクモ、取置テ能由ニ候。薄茶多立「23才」候得ハ、手前クヅル、也

台子之次第

100 一、台子ノ置所ハ、左ノ壁キワヨリ四目、同向ヲモ四目ホトニ置也。

金風炉ハ、両ニ鬼面有、左ノ方ノ鬼面、柱ノ内ニテ見カヘス様ニ置也。又水指モ同前。風炉・水指共ニ前後、台子ノ下板ノ真中也。柄杓立ハ、風炉ト、水サシトノ間ノ、向ノ方ノ真中ニ置也。火筋ト柄杓ヲ立ル也。火筋ハ、風炉ニテハ火移リガタキ故ニ、炭ヲ直ン為也。水覆ハ、柄杓立ノ前ニ置ナリ。蓋置ハ、風炉ノ左ノ角ノ柱ト、風炉トノ角ニ置也。

101 一、台子ノ上ニ茶入・茶碗ヲ置事。中ホトヨリ、我前ヘ少寄テ、茶入ハ右、

茶碗ハ左ニ、間ハ四目ホトアケテ置也。

102 一、茶立ル時ハ、茶碗ヲ右ノ手ニテ取テ、左ノ手ニ移シテ前ニ置。扱茶入ヲ右ノ手ニ取り、茶碗ヲ右ノ手ニテ取テ、左ノ手ニ移シテ前ニ置。扱茶入ヲ右ノ手ニ「23ウ」取り、茶碗ヲハ左ニテ、水差ノ前ニ置合時ハ、先茶碗ヲ先キニ置、左ノ手ヲツキ、茶入ヲ置合。茶入ト

茶碗ノ間如常。茶入ヲ取テ前ニ置、袋ヲ取テ雨覆ノ上ニ、左ノ方ヘ寄テ置也。茶入ヲフキ、水指ノ前ニ置ル茶杓ヲフキ、茶入ノ上ニ置。扱茶筴ヲ取テ置也。扱柄杓立ノ柄杓ヲ、右ノ手ニテ取り、左ノ手ニ

置。フクサニテ釜ノ蓋ヲ取り、下板ノ上ノ蓋置ニ置テ、其ノフクサニテ下板ヲ二ツ拭、其フクサヲ懐ヘ入。茶巾ヲ、風炉ノ前ヘ少右ヘ寄テ置。扱湯ヲ汲テ、茶碗ニ入ル「二柄杓也」。扱柄杓ヲ左ノ手ニ取、釜ノ蓋ヲシメ、柄杓ヲ右ニ取、柄杓立ニ立ルナリ。扱茶センヲ茶ワシニ入。扱茶巾ヲシボリ、本ノ処ニ置テ茶筴ヲ上ケ、湯ヲ捨、茶碗ヲフク也。扱茶入ヲ取、茶入テ、柄杓立ノ柄杓ヲ如右取り、釜ノ蓋ヲ取、蓋置ニ置テ柄杓ヲ取直シ、湯ヲ汲テ茶碗ニ入、柄杓ハ釜ノ上ニ置。風炉同前ナリ。扱茶ヲ客ヘ出シテ後、水サシノ蓋ヲ取り、置

所ハ左ノ台子ノ間ニ置也。「24才」

103 一、取置事、如常。但柄杓立ニ柄杓ヲ立、水指ノ蓋ヲシメカケ、少奥ヘ押入、茶碗・茶入勝手ヘ持入事モ有。又如本、上ニ置事モアル也。又取置時ハ、水覆ヲ下ヘヲロシ、其跡ニ蓋置ヲ上ケ置テ、水覆ヲ取テ立ナリ。又薄茶立申時ハ、水覆ヲ持テ出、右ノ蓋置ノ在ル所ニ置テ立ル也。

104 一、台子ノ雨覆ノ上ニ、柄杓ノ柄先七分出シ、柄杓ノガウハ、雨覆ノ板ノ、中ホトニ有ヤウニ、筋違テ置事モ有。其時ハ茶碗ニ湯一柄杓

- 入、其湯ヲ捨、又一柄杓入テ、釜ノ蓋ヲシメル時、上二置ヲ有。扱茶碗へ茶筴ヲ入テ、茶巾シボリスル也。釜ノ蓋ヲシメル手前ハ、冬三月正二月ノ中旬迄ノ事也。
- 105 一、書院振舞ノ時ハ、客十人モ有ハ、濃茶二服立ル。其時ハ、薄茶ヲ不レ立シテ、濃茶計ノ時ハ、柄杓ヲ雨覆ノ上二置。釜、蓋ヲシメテ立ル也。其外ハ柄杓立二立置也。
- 106 一、台子ニテ薄茶ノ時、如此。茶碗ト棗ニテモ、中次ニテモ置候ヲ、取ヲロシ、組合テ。24ウ」扱茶碗ヲ取テ、茶立ル所ニ置。其次ニ棗ヲ取テ、水指ノ前ニ置。茶杓ヲフキ、棗ノ上ニ置。茶筴ヲ取テ置テ、扱柄杓立ノ柄杓ヲ右ニ取り、左へ直シ、釜ノ蓋ヲ取ル。是モ如初、フクサニテ下板ヲ扱テ、フクサヲ懐へ入。茶巾ヲ下板ニ置、茶筴ヲス、ギ、本ノ処ニ置。扱下板ノ茶巾ヲ添テ、ユリテ捨。扱フキ、下ニ置、茶巾ヲフクサメテ本ノ処ニ置。茶ヲスクヒ入テ、湯ヲ入、立ル也。又茶巾ハ、風炉ノスキノ如ク、茶筴ヲ茶入ノキワへ直シ、扱茶巾ヲホウノ、茶碗ノ中へ入。扱柄杓ヲ取、釜ノ蓋ヲ取テ、茶ワシノ内ノ茶巾ヲ下ニ置、湯ヲ汲。茶筴ヲ振り、本ノ処ニ置。扱茶碗ヲ取テ、茶巾ヲ取、湯ヲ捨ル。色々在也。
- 107 一、夏、台子ニテ濃茶立ル時ハ、風炉同前ニ、水ニ柄杓サシテ立へシ。取置事如常。湯ヲ茶碗ニ入、ス、キテ捨。又一柄杓入、茶センス、ギスル。是ヨリ右ニ替ル事ナシ。
- 茶立ノ時ノ次第之事25才」
- 108 一、茶入ノ底扱時、昔ハ茶入ヲ持つ手ヲ扣候。織部殿ヨリ、茶入ヲ直ニ扣ガ能由ニ候。
- 109 一、茶碗ニ湯ヲ入ル時、目付処ハ、左ノ方ヲカネニシテ湯ヲ入也。柄杓ヨリ湯ノツトウ事ナシ。
- 110 一、湯ヲ汲、水ヲサスニモ、柄杓ニカブリヲ振ラセヌモノ也。又物ヲ越ス事悪由ニ候。
- 111 一、目ハ手ニ付、手ハ目ニ付ト云事アリ。茶立ル時、先左ノ手ニ目ヲヤリ、茶碗ヲ取り直シ。其儘茶入ニ目ヲヤリ、取テ前ニ置キ、袋ヲ退ル時、其儘釘ニ目ヲ付、其目ヲ腰ノフクサニ付、取出ノ扱。其儘茶入ニ目ヲ付、茶入ヲ直シ、其目ヲ茶杓ニ付テ取也。何モ如此也。
- 112 一、茶ヲ一スクヒ入テ時宜有。客ヨリモ時宜有テ、客ハ茶ヲ入ル時ハ手ヲツキ、茶ノ粉色ヲ見テ、氣ヲツクル也。25ウ」
- 113 一、湯ヲ入テ、モハヤ茶筴ヲ可レ上前カトニ、上坐ノ人、相客へ時宜アリテ。亭主茶碗ヲ出ス時ハ、其儘上坐ノ人、フクサヲ手ニ置、其上ニ茶碗ヲ置テ、即頂キ飲也。
- 114 一、濃茶ヲ立、釜ノ蓋ヲシメルハ僻事也。但シメル時二度アリ。一ニハ客一人カ二人カニテ、アマリ小服ナレハ、ヌルクナル故ニ、少多服ニ立申時、釜ノ蓋ヲシメ、引切ニ柄杓ヲ置、水覆ト水指ノ間ニ筋違テ置テ、亭主罷出、茶ヲスケ申時、蓋ヲシメルナリ。一ニハ客十人モ、其上モ有時。濃茶二服ニ立ル時、坐ヲ二二分テ茶ヲ立ル時、一服立テ蓋ヲシメテ、又後ノ人ニ出ス為ニ釜ノ蓋ヲシメル也。
- 115 一、茶入ヲ替ント思ハ、爰ニテ替ル也。替ル時ハ茶杓ヲ取テ、茶碗ノ上ニ置。後へ茶入ヲヤリ、棗ヲ取出シ、茶入ノ跡ニ置。茶杓ヲ其上ニ置、客茶入ヲ御出シ有ト時宜有。不レ出ノ勝手ヘモ不入、脇ニ置也。
- 116 一、茶入ノス蓋ニ、虫喰有ハ、茶入ノ右ノ方ニスルナリ。26才」
- 117 一、湯汲時、柄杓ニ一盃汲度思フ時ハ、釜ノ中ニテ少シ捻リ候得ハ、

八九分メアリ。是ハ濃茶ノ初二、茶筌ス、ギノ時ノ心持也。兎角初湯ヲ汲時モ、濃茶立ル時モ、底ハ柄杓ヲツキ当ル也。

118 一、湯汲心持ハ、釜ヨリ汲テ茶碗ニ入時、湯皆ニ成時、柄杓ヲ仰ル故

ニ悪シ。湯ヲ入テ皆ニナル時、如何ニモ心計ニテ、柄杓ヲ其ノナリ

ニ俯ク心ヲスレハ、一雫^{シツク}落シ、其柄杓ヲナオサス、其儘釜ヘ入ル。

水ヲ釜ヘサスモ、釜ノ上ニテ右ノ心持。万事ヘ渡ルヘシ。

119 一、惣別、スキノ時ハ、勝手ニ釜一ツ・茶碗一ツ・水指一ツ・柄杓・引切・

茶巾・茶筌・水覆、其外大炭・小炭入タル足打皆置也。右ノ外ニ不

物ハ不置也。

120 一、茶前ニテ天目ヘ湯ヲ入レ、釜ノ蓋ヲシメル時、引切釜ノ中ヘ入ル

事有。其時ハ水指・茶碗モ其儘置テ、柄杓ヲ棚ヘ上ケ、勝手ヨリ環

ヲ取出シ、釜ヲ上ケ、勝手ヘ取テ入。釜ノ湯ヲ捨、勝手ノ釜ノ湯ヲ

入替テ、釜ニ水ヲカケシメシテ、坐ノ炉ニ掛ケ26ウ」茶ヲ立ル也。

121 一、水次ノ上ニ置茶巾ハ、風炉ノ時モ古キカ能由ニ候。スキ無功ニ見

ヘ候テ、悪由候。釜ヲ拭ン為新ハ悪也。

122 一、我茶ヲ貴人ヨリ飲候得ト、御意ニテ飲申時ハ、茶碗ヲ洗テ飲事ナシ。

同輩ノ時モ同前也。

123 一、炭組事。瓢ニテモ足打ニテモ、下ニ小キ炭ヲ入。扱大炭、其次ノ

炭ヲ組也。是ハ持出ル左ノ方ニ大炭ヲ置、右ノ方ニ小炭ヲ置。扱火

筋ヲ置、其上ニ環・羽箒ヲ置テ出ス、火入・菜籠モ同前。

124 一、晩ノスキニハ、手水ヲ遣申事ハナキ事ナリ。兼日ヨリ約束ニハ、

朝トテモ同前也。朝ニテモ晩ニテモ、手汚候ハ、一人ニテモ二人ニ

テモ洗ベシ。手水遣事ハ、坐ニ釜有テ不時ニ來時、一服可被下ト云

時、手水ヲ遣物也。其時ハ、亭主モ御入有ト申テ、路次27才」ニ

水ヲ不打。客坐入有テ後、水ヲ打也。其後菓子ヲ出シ、取時分ニ水指ヲ持出ル也。客モ水サシ出申間、手水ニ立不申候テ、時宜ヲ云物也。亭主モ其儘御入有レ、為^レ其水指ヲ出シ候得ト申也。

125 一、釜ノスキヤウ。コシキノ有釜ハ、炉縁ヨリ六分上ル也。ウバ口ノ

釜ハ、炉縁ヨリ六分下ルナリ。

126 一、釜ヘ柄杓ヲカケル事。コシキノ釜ヘハ、柄杓ノガウヲ、釜ノ内ヘ

落シ入ル也。ウバ口ノ釜ハ、口ニ柄杓ノガウヲ掛ル。炉ノ縁キワニ

テ五分半上ル。但環付下リ候得ハ、上テスキエ能由ニ候。

127 一、五徳ノスキヤウ。曲柱^{ユカミ}ノ方ヘ足ヲ二ツ成シ、カギ疊ノ方ヘ足ヲ一

ツスル也。五徳ノ輪、真中ニスエ候得ハ、一ノ足、カギ疊ノ方ヘ寄

リ申候得ユヘ、五徳ワキヘ寄候テ悪シ。其心得ヲシテ、スキエヘシ。

27ウ」

128 一、釜敷ノカミ、時ニヨリ釜シサラザル^レ有。其時ハ一二度シサラシ、

釜ノ置処ニ別ノ敷紙ヲ置テ釜ヲ直シ、其時シサラザル紙ヲバ懷ヘ入

也。其為ニ懷中ニ二折持也。

129 一、炭置事。客ノ方ヲウケテ、本トノ我前ヲ、炭ノウラニ成ヤウニ置

テ能由ニ候。

130 一、割炭ヲハ火筋ニ挾申時ハ、平カナ方ヲ上ニシテ挾也。薄方ヲ挾ミ

申事悪シ。大炭ハ先ニモ前ニモ置也。輪炭ハ何方ニ置テモ、客ノ方

ヘ筋違テ、切口ノ見ユルヤウニ置也。細炭ノワリタル方ヲ、大炭ヘ

モタセ、ソリタル方ヲ上ヘスル事悪シ。黒小炭ヲアイシライニ置ハ、

大炭ノ上ニ置事モ有アリ。又小炭ノ上ニ置事モアリ。又大炭ニ持セ

テ置事モアリ。作分次第也。

131 一、坐入ノ炭ハ、大炭ニ置テ能由候。二度目ノ炭ハ、輕ク置心持也。

- 132 一、水指ノ置所ハ、横竹ノ下、地敷居ヨリ九目ユガミ、柱ト、出カベトノ真中ニ置ナリ。
- 133 一、床ノ内ノ窓ニ折釘有。此釘ハ用ル事ニ色アリ。一二ハ、貴人ヨリ掛物配領仕、28才」御茶ヲ上ケ申時、坐入ヨリ掛置、後迄置也。其時ハ、下ニ置花入、有尺不_レ出_ル、筒ニテモ籠ニテモ掛テ能由ニ候。又一二ハ、掛物人ニ所望仕、其人ニ掛物開キ仕時モ、又如_レ右、花入掛ンガ為也。
- 134 一、広キ掛物ニハ、床ノ上ニ釘三打也。掛時ハ、先中ノ釘ニ掛、扱左ヲ掛ケ、扱右ヲ掛テ、ロクヲナラシ。扱中ヲ放シ、二ノ釘ニ掛置也。
- 135 一、書院床ニ掛物カクル釘ハ、黒縁ニ打也。但是ハ、床ニ張付有時ノ事也。土壁ニハ、直ニ大輪ヨリ一寸下テ打也。
- 136 一、三幅対有時見ル事。先中ヲ見、扱右ヲ見、扱左ヲ見ル也。但坐ニ可_レ寄、我居坐ノ方ヲ、後二見テ能由候。
- 137 一、床ニ初二掛物ヲカクレハ、後ニハ花也。
- 138 一、名物ノ墨蹟ナレハ、客ヨリ亭主へ、読候得ト、被申事アル時ハ、ヨミヤウ不存ト28ウ」申テモ、不苦候由ニ候。
- 139 一、籠ノ花入ニハ、露ヲ打ス物也。又床ニ置時、薄板ニ置事悪キ也。直ニ置ガ能由ニ候。籠ガ風体ナル故ニ、薄板不入事也。
- 万覚之事
- 140 一、冬ノ手水鉢ニ、朝ハ水ヲ入テ能候。中立ノ時、水ヲ捨テ、片口ニ湯ヲ入テ、前石ノ右ニ置也。柄杓ヲハ手水ノ上ニ置、扱遣時ハ片口ノ蓋ヲ取り、柄杓ニテ遣フ也。片口ニテ其儘遣候得ハ、蓋落ル也。又松葉流ル物也。
- 141 一、花ノ入ヤウ。客ノ方へ、花ノ枝ヲナビケテ入ル。如_レ其、両方へハ不出物也。大方一方へ向テ入也。扱花入ル、ニ、引へノ心持有リ。枝ヲ前へ直ニ出スハ不苦、横ニ直ニ出ハ悪也。
- 142 一、權花入事ハ、先ツ日ノ不出内ニ入タルカ能候。日出テ入候得ハ、花悪也。花入ノ内ニテ、開クヤウニ入物也。掛物ヨリ初二入也。坐入シテ取入候時分ハ、初心ノスキニハ29才」不入由。又スベヲ不_レ知人ニ入申事ハ、悪事也。
- 143 一、時分相違ノ花ヲハ、不入物也。
- 144 一、客花ヲ入ル時ハ、花ノ枝ヲ勝手ヘナビケテ入ル也。
- 145 一、客坐敷ニテ花ヲ入ル時ハ、左ノ足ヲ床へ上ケ、右ノ足ヲ下ニ置、カツテへ向ヒ入ル、也。
- 146 一、スキヤニテハ惣別、家僕ニテモ、ヂダラクニ物ヲ云事、スキノ越度也。
- 147 一、位ノ僧ニ新筆掛ル事、亭主ノ越度也。但其派ノ大老ノ墨蹟ナラハ、不苦也。心持可有之事。
- 148 一、台天目ニテ茶ノ飲ヤウ。台ニ載テ三口飲、台ヲ下ニ置テ飲。取次へ渡スナリ。台ヲハ、跡ヨリ見テ次へヤル也。
- 149 一、棗ハ初・中・後、左ノ手ニテ取置也。
- 150 一、掛物ヲ巻テ緒ノ留ヤウ有。軸卷ノ紙ヲビヤウ、軸ノ中へ挟、巻テ、其上ヲタクボク29ウ」ニテニ巻キシテ、三巻キ目ノ緒、下ノ二巻ノ上ヲ筋違ニ、左ノ方へ取。カケ糸へ折返シ入候得ハ、二重ニ成。其ワキヲ右ノ方ノ懸糸へ入、左右ノ緒先ヲ同様ニ出ス也。
- 151 一、茶入ノ緒ノムスビヤウハ、下ムスビヲ能シメ、上ムスビヲ両へ同ホト出ス。右ノ方へ成ル下ノワナラムスビ、目ノ内ニテ上へネヂ返シ、ムスビ候得ハ、緒ヲ解候テ、引出ス時ニモヂレ候。ワヲ真ニ解

ル也。

- 152 一、茶碗ニ茶立申時モ、前ヘニ置時モ、炉縁ノ方ヘ少手ニテツキ、先ヘ出スヤウニスル也。万事此心持能由候。
- 153 一、茶筌ニモ、茶巾ニモ、柄杓ニモ、我前ヘダキマワスト云事有。
- 154 一、釣棚ニ、茶入ト羽箒ト置合時ハ、茶入ハ中ニ、羽箒ハ壁キワニ置也。同、香箱ト羽箒ト置合ニモ、香箱ハ中也、羽ハ壁キワ也。
- 155 一、水指ノ蓋ノ取手ハ、何時モ横ニスル也。釜ノ取手ハ、長ミヲ先ト、前トニ「30オ」スル也。
- 156 一、口切ノ時ハ、炉ニ塗縁能由ニ候。炭入ハ瓢也。春ノスキニハ、木地縁能由候。炭入ハ菜籠也。
- 157 一、茶杓見ル事ハ、カイヲ我前ヘ成ノ、持処ヲ向ヘナシテ見ル也。
- 158 一、釣舟ノハナヲ見申時ハ、先床ノ前ニ畏居テ見テ。舟ノ中ヲ見時ハ、立テ見ルナリ。夫ヨリ大目ヘ移ル也。
- 159 一、ニジリ上リノ戸ニ本有物也。一枚ハ水ニテヌラシ、逆ニ立置。客ノ来ル時、水氣ヲ取テ立替ル物也。中クヾリノ戸モ同前。雪隠ノ戸モ、シメテ能由ニ候。冬夏共ニシメル申事同前也。
- 160 一、夏ノスキニ風吹ヌ時ハ、ニジリ上リノ戸ヲアケテ置テ能候。其ノ時ハ、客モシメヌ物也。雪隠ノ戸モ、開テ置テ能候。30ウ」
- 161 一、引切ハ、同カヘシニ、一分高力能候。
- 162 一、小板ハ、八寸五分四方也。厚サ五分也。
- 163 一、薄板ハ一尺三寸三分、横九寸四分ナリ。
- 164 一、三羽箒ハ、長サ羽先ヨリ緒留マテ七寸三分、羽ノ内四寸五分、竹ノ皮ニテ卷ナリ。間ヲ二寸八分ニ結ソ。同竹皮ニテ、三所ニ重ニマワシ、羽先ニテムスブ。羽ノキワト、竹ノ皮トノ間八分。中上ノユイメ端ヨリ一分半、下ノユイメ端ヨリ二分也。結申皮ハ、小クシテ好シ。
- 165 一、掛物懸ル釘ハ、竹釘ハ、二分、厚サ一分半也。大輪ヨリ、一寸下ケテ打也。釘ノ頭九分出シ、皮メヲ上ヘシテ打也。
- 166 一、茶入ノ折釘ハ、床ノ地敷居ヨリ、三尺八寸ニ打也。利休ノ時、究也。但花入長ク候得ハ、四尺ニモ打也。31オ」
- 167 一、釜敷ノ紙ハ十枚重テ四ニ折、長サ五寸三分、ハ、四寸五分也。
- 168 一、茶巾ノ寸ハ、巾七寸ニ裁、布目ヲ直シ、縫立六寸也。平縫ナリ。但シ西ノ方ヘ端ヲ折テ縫也。長ハ布巾也。
- 169 一、フクサノ寸ハ、一尺五分、横十九目ニノ能由ニ候。
- 170 一、釣舟ノ折釘ハ、床ノ落カケノ中墨ヨリ、二分下ニ打也。床ノ方ニ打也。クサリ一有方ヲ、出舟ト云也。二有方ヲ、トモト云也。朝ハ出舟。晩ニハ入舟ト掛ル也。
- 右條々守岡閑栖老、自織部殿直伝之由ニ候而、此書物ヲ会津分散之後、於大坂長堀被書立候也。口書ハ拙僧仕候故、写取也。併聚類事、後予私二分テ書也。正保乙酉歳中ニ出来仕候也。31ウ」
- 171 一、天目ノ土色ハ、黒ハ上。青ハ中ノ下。白ハ下ノ下也。
- 172 一、天目ニテモ、茶碗ニテモ、次テ悪ハ、蟹ノ足ヲ鍋ニ入レ、天目ヲ入レ、水一盃入、煎シ候得ハ、離ル、也。
- 173 一、茶巾ヨゴレ候ハ、カタカケニテ、湯ニテモ水ニテモ、能洗候テ、釜ノ上ニナリト、又、客有ハ、カタカケニホスベシ。

